

2022年10月20日

立教大学国際学術研究交流制度
2022年度「招へい研究員」報告書

1. 招へい概要

受入 教員	所属・職	異文化コミュニケーション学部・教授
	氏名	武田 珂代子
受入学部・研究科・研究所		異文化コミュニケーション学部
招へい 研究員	所属・職	School of Languages and Linguistics, Faculty of Arts, University of Melbourne 所属機関所在国：オーストラリア
	氏名	Anthony Pym
招へい期間		2022年9月19日～2022年10月19日（31日間）
研究経費		788,540円

2. 滞在中の活動

来日日および離日日を含め、滞在中の活動を記入してください。全日程（毎日）記載する必要はありません。講演会やセミナーなどを開催した場合はタイトル、会場、参加者数等を記載してください。

活動内容記入例）〇〇について研究討議、共同研究、講演、講義、大学院生への研究指導等

*「本学との学術協定（学部間・研究所等間を含む）の締結または既存協定の維持・強化に資する活動」を行った場合は、該当する活動内容に※を付してください。

年月日	活動内容
2022年9月19日	来日
2022年9月20日	受入教員と滞在中活動や公開講演会準備などの確認 (M1207)
2022年9月21日	院生4名の研究発表に対する講評と助言 (9202)
2022年9月27日	教員3名と翻訳研究の動向に関する討議 (M1207)
2022年9月28日	院生12名を対象に翻訳研究方法論に関するワークショップ (9202)
2022年10月4日	教員3名および通訳翻訳学会員5名と翻訳通訳政策に関する討議 (M1010)
2022年10月5日	学部生20名を対象に特別講義「大学・大学院の翻訳専攻学生に求められるスキルとは」(9205)
2022年10月11日	教員3名と翻訳研究修士・博士論文の指導法に関する討議 (M1207)
2022年10月14日	公開講演会「翻訳：実務者と研究者の関係を再考する」約50名参加 (M202)
2022年10月18日	教員3名と翻訳研究の行方に関する討議 (M1207)
2022年10月19日	離日

3. 研究・交流状況および成果

上記に記載した活動について、具体的な研究・交流の内容および成果を、本学の学術研究、教育活動、国際交流の進展へ与える効果を含めて、記載してください。講演会やセミナーなどの参加者層（学生、大学院生、一般、教職員等）、会場の様子なども記載してください。

翻訳研究の第一人者であるアンソニー・ピム教授を立教大学に招へいできたことは幸運かつ光栄なことだった。1ヶ月という短い期間だったが、教員と学生にとって、多くの学びがあり、研究上の刺激を受ける機会となった。特に、院生の研究発表に対し詳細な助言と激励をいただいたこと、また、メルボルン大学院生の研究論文を事例としながら、リサーチ・クエスションの組み立て方や適切な研究方法の見極めについてお話いただいたことは、学生にとって極めて有益な経験になったと考える。学部生も、世界的に著名な研究者の話を直接聞き、質疑応答でやりとりができたことを感激している様子だった。翻訳教育、機械翻訳、トランスレーション・ポリシーなどに関する教員との討議では、話が尽きることなく、情報の共有や議論の深化が進んだ。翻訳の実務者と研究者との関係をテーマとする公開講演会では、立教生・教員のみならず、関西地方など遠方から40名強の参加者があり、質疑応答で活発な議論が展開された。この講演の動画は異文化コミュニケーション学部のウェブサイトで開催する予定である。

今後もオンラインでの講義や研究会でピム教授の協力を得るための打ち合わせも行った。また、2、3年後にピム教授を基調講演者の1人として招へいし、トランスレーション・ポリシーに関するコンファレンスを本学で開催できるように準備を始めることも確認した。



講義「大学・大学院の翻訳専攻学生に求められるスキルとは」を熱心に聞き入る学部生。質問やコメントも積極的に行った。



公開講演会「翻訳：実務者と研究者の関係を再考する」でのピム教授。遠方からの参加もあり、活発な質疑応答が展開され、充実した講演会となった。